

# 令和元年度第2回北海道科学技術審議会における各座長の視点・コメント

旭川地域  
(西川座長)

<テーマ>医工連携

- 大学の中でのアイデアを、どのようにして良い形で地元の企業へ発展させるかということを考えてはいるが、企業とのルートがないというのが現状。
- 旭川市内には、機械関係だけではなく、薬や食品などもあるので、そういう旭川地域の企業情報をまとめていく必要があると思う。そういう基盤づくりから進めていきたい。

北見・網走地域  
(内島座長)

<テーマ>食や農林水産業  
における科学技術の活用

- 少子高齢化や地元産業の担い手不足といった共通の課題を抱えているが、一方で、各地域にはそれぞれに異なる課題も存在する。
- 地域固有の課題や、地域懇談会で出された意見・アイデア・情報は、是非北海道として、施策や地域支援の具体的な計画に活かして欲しい。

室蘭・苫小牧地域  
(吉成座長)

<テーマ>ものづくり分野に  
おける生産の効率化・高度化

- 目先や直近のことには意識があるが、その先の将来、省力化や技術伝承への対応ができていないという感想をもったので、今後も議論していきたい。
- 今後の対応方向として、「道も情報共有を図りながら必要な助言・支援を行う」とあるが、まさにこの懇談会の結果をどう手当していくかが重要。

北海道

- 「地域企業人材の育成」を目的に、「スマートものづくり導入促進フォーラム」を函館(11/27)、室蘭(11/28)で実施。
- 大学等のIoT、AIなどの先端技術の研究成果を活用した事業化を促進するため、地域産業の課題や企業等のニーズを把握し、大学等の有する技術シーズとのマッチングや産学官による事業プランづくりに対する支援のあり方を検討していく。

十勝地域  
(井上座長)

<テーマ>農業における省  
力化・生産性向上

- 農業従事者の不足によって、個々の営農者の負担が大きくなってきているので、畑と酪農における自動化は喫緊の課題ということを情報共有した。
- 今後は水産関係者にも参画してもらって、地域で農業、水産業、畜産業ということで、もう少し広く考えて問題解決に進んでいけたらと思っている。

函館地域  
(田柳座長)

<テーマ>AI・IoT等の  
利活用について

- ハイテクシーズを技術移転していけるようなベンチャー企業だけでなく、ローテクも駆使しながら、仲間の中小企業を引き上げていくようなタイプの力のあるリーダー企業が必要。
- サポートやセーフティネット無しでは、なかなか前に進まないの、企業にやらせる前に、行政や金融機関がもっとAI・IoTを使うなど、全体として機運を上げていくことが必要。

釧路地域  
(中村座長)

<テーマ>一次産業におけ  
る省力化・生産性向上

- 技術とビジネスの関係ですが、地元の事業者が、その技術を使うかどうかは、それが儲かる、利益につながるかを確信できるか否か。
- 水産、酪農にしても、お互いに競争状態にあるので、せつかくAIを導入しても、データを外部に出さないの、情報共有が重要。